

【浪江町】
校務 DX 計画

「浪江町教職員働き方改革アクションプラン（令和7年度～令和10年度）」（令和7年4月 浪江町教育委員会）で示す教職員の働き方改革の推進により、児童生徒と向き合う時間や授業改善のための教材研究の時間の確保など、教職員が本来行うべき業務に集中することができるよう「学校の在り方の変革」を行う。継続した校務 DX に向けた取り組み及び不断からの改善等により、教職員がやりがいと達成感を持って働くことができる持続可能な教育環境の整備と、児童生徒の健やかな成長と自己実現が図られる教育環境を構築することを目的とする。

1. 校務支援システムを取り入れた校務の効率化及び管理サポート

小学校及び中学校の教職員の業務を効率化し、管理をサポートするための ICT ツールとして内田洋行の統合型校務支援システム「デジタル校務」を令和5年度より導入。児童生徒の基本情報等の管理、帳票作成やデータ作成等への活用により、教員の業務負担の軽減及び教育活動の質の向上を図る。また、管理職の働き方改革推進のため職員室の天井にモニター（Wi-Fi 活用）を設置し、毎日の日程等がデジタル校務から直接転送・表示され、職員室の黒板への手書き作業を皆無とする。

2. 1人1台端末の整備

校内ネットワークの整備と1人1台端末の整備により、より個人の理解度に応じた学習を提供する。児童生徒の学習履歴が蓄積されることにより、教師は個々の学びの進捗や理解度を滞りなく把握することができ、個別最適化されたより公平で適切な評価を与えることができるなど、授業改善に役立てることを可能とする。また、タブレット端末には、子どもの学習意欲を高め、主体的な学びを促すため「ミライシード（小学校）」や「e ライブラリ（中学校）」などのデジタルドリル教材を導入する。

3. FAX・押印等の見直しとペーパーレス化の推進

「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告等によると、保護者・外部とのやりとりにおいて押印・署名を必要とする書類が存在し、また、慣例的に外部団体等との連絡に FAX を使用しているケースがあり、クラウド環境を活用した校務 DX を大きく阻害していることが指摘されている。特に押印については、学校と教育委員会間の文書において、法令等で押印が必要とされている文書以外にも押印を行っている場合がある。よって、提出書類等の押印の見直しにより、事務処理の簡素化に努める。また、教育委員会で印刷可能な書類等については、電子媒体での提出を求め、学校のペーパーレス化を促進する。

4. 校務・授業における生成 AI の活用

文部科学省が示した「初等中等段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」を遵守したうえで、働き方改革の視座を含めた校務・授業支援のために、教育特化型の生成 AI の試験的導入を令和 7 年度より開始する。

5. クラウドサービスの活用

「ふくしまクラウドサービス (FCS)」により教職員や児童生徒がクラウドサービスを利用できる環境にある。校内での情報・資料等の共有やアンケート調査、授業でのクラウド活用などが徐々に進展してきている。このような状況の中で、保護者を対象とした活用はあまり進んでいないことから、活用の促進と業務の効率化やペーパーレス化に向けた取り組みを促進させる。

6. 浪江町ならではの IOT の利活用

令和 7 年度からは、日産スマートモビリティ (日産自動車と提携) を活用したバス欠席連絡システムの運用を開始する。このアプリの活用により、保護者からのバス運転手と学校への出欠連絡を一元化し、毎朝の連絡の負担を軽減させる。